

創世記43－44章 「ヨセフの前に出るユダ」

1A 弟の帯同 43

1B 父の明け渡し 1－14

2B ヨセフの前での食事 15－34

1C 管理人による気前良さ 15－25

2C 兄弟への分け前 26－34

2A 弟の「罪」 44

1B 盗みの罪 1－13

2B 執り成し 14－34

1C 連帯責任 14－17

2C 保証人 18－34

1D 父のいのち 18－29

2D 身代わり 30－34

本文

創世記 43 章を開いてください。私たちは、兄たちが穀物を買いに、エジプトのヨセフのところに行ったところまで読みました。ヨセフは、弟と一緒に来なければ、私の顔を見ることはできないと言いました。それで帰ってきましたが、父は絶対に連れて行かせないと言いました。最後の言葉を読みましょう、42 章の最後です。「³⁸ この子は、おまえたちと一緒にには行かせない。この子の兄は死んで、この子だけが残っているのだから。道中で、もし彼にわざわいが降りかかれば、おまえたちは、この白髪頭の私を、悲しみながらよみに下らせることになるのだ。」

ヤコブは今、自己憐憫に陥っています。36 節を読めば、「おまえたちは、すでに私に子を失わせた。ヨセフはいなくなり、シメオンもいなくなった。そして今、ベニヤミンまで取ろうとしている。こんなことがみな、私に降りかかってきたのだ」と言っていますね。私に子を失わせていると言って、ヨセフ、そしてシメオンを、お前たちのせいで失ったのだと言い、それで最後は、「こんなことがみな、私に降りかかった」と言って、暗に神が自分を苦しめていると、非難しています。彼は、神の御手があることに思いを寄せず、自分の手に収めたいと思って意固地になっていました。

1A 弟の帯同 43

1B 父の明け渡し 1－14

¹さて、その地の飢饉は激しかった。²彼らがエジプトから持って来た穀物を食べ尽くしたとき、父は彼らに言った。「また行って、われわれのために食糧を少し買って来てくれ。」

主は、飢饉によってヤコブの心に迫っておられます。ヤコブは、飢饉もいずれは終わるだろうと、勝手な楽観を持っていました。けれども、予想に反して飢饉は激しかったのです。実は、七年の飢饉のうち、まだ二年しか経っていません。彼の楽観は、「[少し買って来てくれ](#)」と言っているところにも表れています。少しだけ買えば、飢饉はなんとかやり過ごすことができると思いました。

私たちも自分の手中に物事を収めておきたいと願うことがありますね。主は憐れみのゆえ、それらをなくして、ご自身の手に明け渡すように仕向けていけます。

³すると、ユダが父に言った。「あの方は私たちを厳しく戒めて、『おまえたちの弟と一緒になければ、私の顔を見てはならない』と言いました。⁴もし弟を私たちと一緒に行かせてくださるなら、私たちは下って行って、お父さんのために食糧を買って来ましょう。⁵しかし、もし彼を行かせてくださらないなら、私たちは下って行きません。あの方は私たちに、『おまえたちの弟と一緒になければ、私の顔を見てはならない』と言ったのですから。」

午前礼拝でも話しましたが、43 章と 44 章は、ヨセフだけでなくユダも、キリストを証しする者として用いられることになります。父のため、また弟ベニヤミンのために犠牲を払うつもりで、ヤコブの家が生きることのできる道を示しました。父なる神のゆえ、私たちのために犠牲を支払われたキリストを証しているのです。

後に、ヤコブは死ぬ前に、ヨセフには二倍の祝福を宣言します。ヨセフから北のイスラエルの代表の部族、エフライム族が出てきます。そして南はユダ族です。主が、このようにしてご自分の御霊で働きかけておられます。

ユダのここでの特徴は、敬うことです。父を敬いたいのです。しかし、エジプトの主君も敬わないといけません。彼が弟と一緒になければ、自分の顔を見てはならないと言ったのです。ですから、彼は板挟みとなり、どちらかを選ばないといけないのです。そのエジプトの主君を選びました。なぜなら、自分たちのいのちがかかっているからです。食べ物を得なければいけません。

⁶イスラエルは言った。「なぜ、おまえたちは、自分たちにもう一人の弟がいるとその方に言って、私を苦しめるようなことをしたのか。」

ヤコブは、実に自己中心です。「私を苦しめるようなことをした」と責めていますね。私が私が、と、繰り返して言っている時、それは傲慢になっているのですが、威張っている時だけでなく、自己憐憫に陥っている時もそうなのです。

しかし、興味深いことに、著者モーセは、ここから「[イスラエル](#)」の名を使っています。そうです、か

つてヤコブが御使いと格闘し、御使いがそのもつがいを打って、足をひきずるようにさせて、それでようやく、神がご介入することができました。ヤコブが、自分の手に収めていたものを手放すので、それでイスラエルと再び呼んでいるのです。

⁷ 彼らは言った。「あの方が私たちや家族のことについて、『おまえたちの父はまだ生きているのか。おまえたちには弟がいるのか』としきりに尋ねるので、問われるままに言ってしまったのです。『おまえたちの弟を連れて来い』と言われるとは、どうして私たちに分かったでしょうか。」

その通りです、まさかヨセフだと分かっていませんから、ずいぶんとおかしい質問をするなと思ったことでしょう。ヨセフは、完全に自分の身を隠すつもりでないのは、明らかです。エジプトのお代官様としてふるまっていながら、自分の思いをかなり明かしています。そして完全に意表を突かれたのは、弟を連れてこいということです。これはもちろん、兄たちが自分と同じ母から生まれた弟をどう扱っているのか、また扱うのかを試すためであります。ヨセフは、父も兄たちも愛しています。しかし、兄たちが同じ態度であれば、和解は成立しません。彼らの心を知りたかったのです。

⁸ ユダは父イスラエルに言った。「あの子を私と一緒に行かせてください。私たちは行きます。そうすれば私たちは、お父さんも私たちの子どもたちも、生き延びて、死なずにすむでしょう。」

ここに、ユダの強い意志が見えます。行かせてくださいと言っていますが、言い直しています、行きます、と。これは、父の命令を守ること以上に大切なことであり、生き延びることです。危機において、またいのちにおいて、他の秩序や序列は関係なくなります。

⁹ 私自身があの子の保証人となります。私が責任を負います。もしも、お父さんのもとに連れ帰らず、あなたの前にあの子を立たせなかったら、私は一生あなたの前に罪ある者となります。¹⁰ もし私たちがためらっていなかったなら、今までに二度は、行って帰れたはずです。」

ユダは、やみくもに父の意向に反していません。父を最大限敬って、それで、自分自身が保証人となる、責任を負うと言っています。ルベンの説得の時のことを思い出してください。息子を殺しても構わないと言ったのです。彼の頭の中では、ヤコブが息子を失ったように、自分自身も息子を失う痛みを負いますという論理なのだと思います。けれども、だれが、孫が死んで喜ぶ人がいるでしょうか？それよりも、自分の言葉が軽々しいものではない、軽い誓いではないことを、自分自身が保証となることによって訴えているのです。

ところで、ここで少し興味深いことに気づきます。ここで、「あなたの前にあの子を立たせなかったら」といって、また、「私は一生あなたの前に罪ある者となります」ということです。これはあたかも、ヤコブが神の代理人で、自分が彼の前に出て、申し開きするような意味合いにさえ聞こえます。そ

うです。ユダは父に対しても、息子を失わせたという負い目があり、神への悔恨があるのです。だから、父の前にしっかり説明責任を果たすことは、神の前に出るようにみなしています。

同じように、ヨセフの前でもそうなのです。彼が、「**おまえたちの弟と一緒になければ、私の顔を見てはならない**」と言っていました。顔を見るというのは、彼の前に出るという意味を含んでいます。「面目が立たない」という言い回しがありますね。負い目があれば、相手に顔を向けることができません。ユダは自分自身がヨセフに罪を犯しましたから、ヨセフの前に出ることは、神の前に出るように、真剣に捉えていることが分かってきます。

¹¹ 父イスラエルは彼らに言った。「それなら、こうなさい。この地の名産を袋に入れ、それを贈り物として、その方のところへ下って行きなさい。乳香と蜜を少々、樹膠と没薬、ピスタチオとアーモンド、¹² また二倍の銀を持って行きなさい。おまえたちの袋の口に返されていた銀も、持って行って返しなさい。おそらく、あれは間違いだったのだろう。

ヤコブらしいです。お土産を用意しています。エサウに会わなければならないので、家畜などの贈り物をいくつかに分けて、前もって贈りました。しかし、当時は、純粋にエサウを恐れていたからそれをしましたが、ここでは礼を尽くすために、誠実さを示すために用意しているのだと思われます。銀は、穀物の袋に入っていたけれども、それを返済すること。また、新たな穀物の購入代金もあるので、二倍の銀を用意する丁寧さが、それを示しています。

ところで、なぜヨセフは、そもそも銀貨を兄たちの袋に入れたのか？ 前回の学びでは、自分は、家族を養うのだという意志を示しているのではないかと話しました。それに加えて、もう一つあるかもしれないと思いました。それは、「兄たちの銀貨は要らない」ということです。自分は、銀貨二十枚で売られたのです。自分のいのちは、金銭で売ような安物ではありません。同じように、兄弟たちや父のいのちは、銀貨を受け取って養うような、安い関係ではないということです。人の命を、金でやり取りをする罪への憎しみ、忌み嫌う思いも込められているかもしれません。

¹³ そして、弟を連れて、さあ、その方のところへ出かけて行きなさい。¹⁴ 全能の神が、その方の前でおまえたちをあわれんでくださるように。そして、もう一人の兄弟とベニヤミンをおまえたちに渡してくださるように。私も、息子を失うときには失うのだ。」

ついに、ヤコブが信仰を取り戻しました。弟を連れて行きなさいと言っていますが、それは、全能の神への祈りがあるからです。アブラハムに対して、全能の神として初め、現れました。それは、エル・シャダイ(אֱלֹהֵי שַׁדַּי)であり、シャダイには元々、お母さんのお乳(Shadayim (שָׁדַיִם))という意味の言葉から派生しています。赤ん坊が母に抱かれ、養われているように、我々も神に抱かれて、養われているのです。ヤコブは、自分で自分を養う、自分でコントロールしてきましたが、全く、主

のコントロールの中に生きなければいけないことを、悟ったのです。

そして、「私も、息子を失うときには失うのだ」としています。そう、ヨブがこのことを告白しました。息子、娘たちを一日のうちに失いました。しかし彼は告白します。「1:21【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」息子は、神からの賜物であっても、自分のものではないです。そして、こうやって、主に明け渡した人は強いです。人は、自分自身と自分のものを守ろうとして、恐れが生じます。そこには、自分が心の王座にいて、高ぶっています。しかし、明け渡すことは、主ご自身に心の王座をゆずることを意味します。明け渡した人は、その状況になっても、主のみを恐れるということができ、自由になれるのです。

2B ヨセフの前での食事 15-34

1C 管理人による気前良さ 15-25

¹⁵ そこで、一行は贈り物を携え、二倍の銀を持ち、ベニヤミンを伴って出発した。そして、エジプトへ下り、ヨセフの前に立った。

ここですね、「ヨセフの前に立った」とあります。権力者の前で立つということは、自分たちが何をされてもおかしくないという、生殺与奪の権利が権力者にあるということです。神の前に出てくるのに通じます。神からその権力が与えられているからです。

¹⁶ ヨセフは、ベニヤミンが彼らと一緒にいるのを見るや、彼の家を管理する者に言った。「この人たちを家に連れて行き、家畜を屠って料理しなさい。この人たちは私と昼食をともにするから。」

ヨセフは、権力者として食事を共にすることを命じます。それは、王が自分の分け前を与えるということであり、恵みを施すということでもあります。後に、ダビデがヨナタンの子メフィボシェテに対して神の恵みを施したいということで、彼を王の食卓で食事をするようになりました(Ⅱサム9章)。そして、イエスがラオディキアの教会の人々にも、彼らが悔い改めたら、家に入って共に食事をする約束されました。自分をいかにしてもできる王に、その分け前を受けるといふ恵みです。

¹⁷ その人は、ヨセフが言ったとおりに、一同をヨセフの家に連れて行った。¹⁸ 一同はヨセフの家に連れて行かれたので、怖くなって言った。「われわれが連れて来られたのは、この前のとき、われわれの袋に戻されていた、あの銀のせいだ。われわれを陥れて襲い、奴隷としてろばとともに捕らえるためだ。」

兄たちは、怖くなっています。このような気前良さ、恵みの施しに対して、彼らは自分たちの銀で、捕らえられるのだと思いました。事実、彼は銀貨でヨセフを売って、それで自分たちの銀で捕らえられると思っているのです。これが、罪が行うことです。罪悪感、罪の責めです。自分のしたこと

が、自分自身に帰って来るということです。

しかし、恵みはそのことがなかったかのようにするだけでなく、豊かに施されるというところまでします。これが、神の恵みであり、受けるに値しない者が祝福を受けるのです。

¹⁹ 彼らはヨセフの家を管理するその人に近づいて、家の入り口のところで話しかけた。²⁰「ご主人様、最初のとき、私たちは食糧を買いに下って参りました。²¹ところが、宿泊所に着いて、袋を開けると、なんと、私たちの一人ひとりの銀がそのまま自分の袋の口にあったのです。それで、私たちはそれを返しに持って参りました。²² また、食糧を買うために、別の銀も持って参りました。だれが私たちの銀を袋の中に入れたのかは、私たちには分かりません。」

午前礼拝で言及しましたが、ヨセフの家に管理者がいました。ヨセフ自身がかつて、ポティファルの家の管理者でした。すべてのものが、管理者に任されています。彼が、ヨセフと自分たちの間を取り持っています。

²³ 彼は答えた。「安心なさい。恐れることはありません。あなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたのために袋の中に宝を入れてくださったのです。あなたがたの銀は、私が受け取りました。」それから、彼はシメオンを彼らのところに連れて来た。

この管理人は、イスラエルの神について知っています。「あなたがたの神、あなたがたの父の神」と言っています。明らかに、ヨセフが教えたのでしょう。そして、銀を受け取っていますが、それは今回の銀を受け取ったということです。前回も、神からの宝物ということです。

そして、かなり長くなりましたが、ようやくここでシメオンが解放されています。前回も話しましたが、ヨセフを売ったことについて、兄たちが話しているのをヨセフ自身が聞いていました。ルベンが、やめさせたことも聞きました。そこで、殺そうとしていた首謀者が、おそらく次の兄、シメオンだったのではないかと分かったのだと思います。ヤコブは晩年、預言をした時に、シメオンとレビについて、「彼らの剣は暴虐の武器(49:5)」と言っています。シェケムで虐殺と略奪を働いたことで、ヤコブはそう言っているのですが、彼がヨセフに対しても同じ仕打ちをしようとしたと、容易に想像できます。

²⁴ その人は一同をヨセフの家に連れて行き、水を与え、彼らは足を洗った。また彼は、彼らのろばに餌を与えた。²⁵ 兄弟たちは、ヨセフが昼に帰って来るまでに、贈り物を用意しておいた。自分たちがそこで食事をするようになっていたと聞いたからである。

足を洗うのは、履き物は、当時はサンダルなので、道を歩けば必ず汚れるからです。お客さんをもてなす時には、しもべが足を洗いました。けれども、そこまではせず、水だけ持っていき、洗う

のは自分たちで行いました。福音書の背景にもなっていますね、イエスが弟子たちの足を洗い、それで互いに仕え合いなさいと命じられたことを、思い出します。

2C 兄弟への分け前 26-34

²⁶ ヨセフが家に帰って来たとき、彼らはその家まで携えて来た贈り物を彼に差し出し、地に伏して彼を拝した。

これは、まるで王の前に出て、贈り物を差し出して、それでひれ伏すという姿です。今も外交において、それぞれの国の元首が、相手国に自国の高貴なものを贈っていますね。箴言にもあります、「18:16 人の贈り物はその人のために道を開き、身分の高い人の前にも彼を導く。」主イエスのご降誕の後に、東方からの賢者も、黄金、乳香、没薬の贈り物を差し出し、ひれ伏しました。

そして、これがキリストの来られる時に、ユダヤ人たちが行うことです。一度目に来られた時は、主は兄弟たちに裏切られ、見捨てられました。しかし二度目に来られる時は、彼らは悔い改めており、みながこの方がメシアであることを知り、ひれ伏すのです。

²⁷ ヨセフは彼らの安否を尋ねた。「以前に話していた、おまえたちの年老いた父親は元気か。まだ生きているのか。」²⁸ 彼らは答えた。「あなた様のしもべ、私たちの父は元気で、まだ生きております。」そして、彼らはひざまずいて彼を拝した。

初めに来た時も、ヨセフは父の安否のことを、しきりに聞いていました。

²⁹ ヨセフは目を上げ、同じ母の子である弟のベニヤミンを見て言った。「これが、おまえたちが私に話した末の弟か。」そして言った。「わが子よ、神がおまえを恵まれるように。」³⁰ ヨセフは弟なつかしさに、胸が熱くなって泣きたくなり、急いで奥の部屋に入って、そこで泣いた。

ついに、ベニヤミンに会えました！他の兄たちは、他の母の子どもですが、ベニヤミンは、同じラケルの息子です。感情極まって、奥の部屋にいて泣いています。

³¹ やがて、彼は顔を洗って出て来た。そして自分を制して、「食事を出せ」と命じた。³² それで、ヨセフにはヨセフ用に、彼らには彼ら用に、ヨセフとともに食事をするエジプト人にはその人たちに、それぞれ別々に食事が出された。エジプト人は、ヘブル人とはともに食事ができなかったからである。それは、エジプト人が忌み嫌うことであった。

かつてエジプトには、ヒクソスというセム系の民族が王朝を建てました。彼らは牧畜をなりわいとしていましたが、エジプトに来て横暴に侵略しました。そのことがあるので、同じセム系で羊

飼いを生業としているヘブル人も、忌み嫌っていたのです。また、エジプト人はエジプト人で、自民族優越主義がありました。また潔癖症です。宗教の中に清潔にすることがかなり含まれます。それで、食事は共に取らないとしています。けれども、それが後で、功を成します。エジプトにヤコブの家族が下っても、混じり合わないのので、混血が起こらず、彼らだけで大きくなっていったのです。

³³ 彼らはヨセフの前で、年長者は年長の席に、年下の者は年下の席に座らされたので、一同は互いに驚き合った。

ヨセフは、自分のことをかなり明かしていますね。けれども、次の章で、自分はまじないをしていると言っています。もちろん、それは事実ではないですが、そういったことで、自分はあなたがたのことを知っているよと、見せているのです。

³⁴ また、ヨセフの食卓から彼らの分が与えられたが、ベニヤミンの分は、ほかの者より五倍も多かった。彼らはヨセフとともに酒を飲み、酔い心地になった。

ヨセフが、なぜ、わざわざ年長の席から順番に座らせたのか？そういったことを、すべて知っている自分が、末の弟のベニヤミンには五倍も多く与えているということをはっきりさせているのです。長男が与えられるのなら、まだ何となくわかりますが、末の息子に多くが与えられるということは、普通ではありません。

ここで、ヨセフは試しています。ヨセフは、父から愛されて、それで、袖付きの長服を着ました。それで彼らはヨセフを妬み、エジプトに売ったのです。それで、同じく弟のベニヤミンに対して、妬むのかどうか、試しているのです。彼は、ここにおいても心を入れ替えていたのが明らかになりました。一緒に酒を飲んで、酔い心地になっています。つまり、妬んでいないのです。

2A 弟の「罪」 44

しかし、ヨセフは、さらに用意をしていました。それは、ベニヤミンが罪に問われたら、彼らはベニヤミンを見捨てるのか？という問いです。

1B 盗みの罪 1-13

¹ ヨセフは家を管理する者に命じた。「あの者たちの袋を、彼らが運べるかぎりの食糧で満たし、一人ひとりの銀を彼らの袋の口に入れておけ。² それから、私の杯、あの銀の杯は、一番年下の者の袋の口に、穀物の代金と一緒にに入れておけ。」彼はヨセフのことばどおりにした。

同じように、食糧を袋に満たして、受け取った銀はまた袋の口に入れておけと命じています。しかし、ベニヤミンの袋には、代金の他に、ヨセフの銀の杯を入れておけと命じているのです。つまり、

盗みの罪を犯したということにします。

³ 明け方、一行はろばとともに送り出された。⁴ 彼らが町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは家を管理する者に言った。「さあ、あの者たちの後を追え。追いついたら、『なぜ、おまえたちは悪をもって善に報いるのか。』⁵ これは、私の主君が、飲んだり占いをしたりするときに、いつも使っておられるものではないか。おまえたちのしたことは悪辣だ』と彼らに言うのだ。」

銀の杯ですが、飲むだけでなく占いをする時に使うとのこと。ヨセフは、もちろん占いに頼ったりはしませんでした。エジプトで、今でいうと深いお皿のような形をして、絵柄がついている杯が普通にありました。そこに水を注いで、その水の動きを見たり、光がどのように入るかを見たりして、占いをしていたのです。

ここは、非常に興味深いことです。族長たち、アブラハム、イサク、ヤコブの信仰の証しには、伏線というか、ばらばらに見える出来事につながりがあるのを、しばしば発見します。かつて、偶像でもあり、また所有権を示していたティラフィムがありました。また、エゼキエル書にはティラフィムが、占いをするのに使われていたことが書かれています(22 章)。ヤコブのおじラバンから盗まれることがありました。それは、ラケルが盗んだものですが、まさかヤコブの家の者たちにティラフィムを盗んだ者がいるはずがないと考え、ヤコブがラバンを非難しました。ここでも、ベニヤミンが占いをするための杯を盗んだという疑いがかけられています。ヨセフが、もしかしたら、このティラフィム事件を思い出させていたのかもしれない。¹

⁶ 彼は追いついて、このことばを彼らに告げた。⁷ 彼らは言った。「あなた様は、なぜ、そのようなことをおっしゃるのですか。しもべどもがそんなことをするなど、あり得ないことです。⁸ 袋の口で見つけた銀でさえ、カナン地の地からあなた様のもとへ返しに来たではありませんか。どうして、あなた様のご主人の家から銀や金を盗んだりするでしょう。⁹ しもべどものうちで、それが見つかった者は殺してください。そして、私たちもまた、ご主人の奴隷になります。」

誓うというのは、自分たちが本気なのだということを示すためですが、聖書では何度となく、「軽々しく誓うな」という戒めがあります。本気でないのに、誓ったらそれに縛られるからです。ですから、イエスは、誓うなとまで言われました。誓うのであれば、「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」としなさいと言われましたね。ここでは、奴隷になると自分たちから言ったので、その言質をヨセフが取り上げることにします。

¹⁰ 彼は言った。「今度も、おまえたちの言うことはもつともだが、それが見つかった者は私の奴隷とし、ほかの者は無罪としよう。」¹¹ 彼らは急いでそれぞれ自分の袋を地面に降ろし、それぞれその

¹ https://youtu.be/a_kV4YY3LNo

袋を開けた。¹² 彼は年長の者から調べ始めて、年下の者で終えた。すると、その杯はベニヤミンの袋から見つかった。¹³ 彼らは自分の衣を引き裂いた。そして、それぞれろばに荷を負わせ、町に引き返した。

年長から始めて年下の者で終えましたが、最後の最後でベニヤミンの袋から出てきました。それで、彼らは衣を引き裂いています。これは、聖書でも心が引き裂かれる時に行うことです。イエスがご自身が神の子キリストであることを告白された時に、大祭司カヤパが服を引き裂きましたね。

2B 執り成し 14－34

1C 連帯責任 14－17

¹⁴ ユダと兄弟たちがヨセフの家にやって来たとき、ヨセフはまだ、そこにいた。彼らはヨセフの前で顔を地に伏せた。¹⁵ ヨセフは彼らに言った。「おまえたちの、このしわざは何だ。私のような者は占いをするということを知らなかったのか。」

ここで、みなが地に顔を伏せています。文字通り、見せる顔がない、面目がないのです。

¹⁶ ユダが答えた。「あなた様に何を申し上げられるでしょう。何の申し開きができるでしょう。何と違って弁解することができるでしょう。神がしもべどもの咎を暴かれたのです。今このとおり、私たちも、そして、その手に杯が見つかった者も、あなた様の奴隷となります。」

先に話しました、ユダはすでに、自分の前に神を置いています。自分が父にしたことは、神に対して犯した罪であり、またここでも、ヨセフにしたことは、神に対して行った罪だと自覚しているのです。それで、「しもべどもの咎を暴かれた」と言っています。ベニヤミンが犯した罪だけでも、これを通して、自分たち自身が銀貨でヨセフを売った罪を暴いたのです。ですから、自分たちが全員、奴隷になりますと、悔恨の思いを言っています。

¹⁷ ヨセフは言った。「そんなことをするなど、とんでもないことだ。その手に杯が見つかった者、その者が私の奴隷となるのだ。おまえたちは安心して父のもとへ帰るがよい。」

ここです。ベニヤミンだけがエジプトで奴隷です。そして、兄たちは家に帰ることができます。ヨセフは、自分がそうであったことを当然、思いながら言っているのです。

2C 保証人 18－34

そして次に、ついにユダの執り成しが始まります。午前礼拝で話しましたが、執り成しとは、第一に仲介です。人と人を取り持ちます。執り成しとは、一方が全く不利な状況に置かれている時、それでも仲介して、相手側に懇願します。そこで大事なものは、相手が納得し、心動かされる、正当

な根拠がないといけないということです。それを、ユダが見事に行っています。

1D. 父のいのち 18-29

¹⁸ すると、ユダが彼に近づいて言った。「ご主人様。どうか、しもべが申し上げることに、耳をお貸しください。どうか、しもべを激しくお怒りにならないでください。あなた様はファラオのようなお方です。

ユダは、まずもって、嘆願することは立場上、あつてはならないことを言っています。ファラオのような存在に、一人の何でもな外国人が申し上げるのですから、逆鱗に触れても全くなおかしくないのです。それで、お怒りにならないでくださいとお願いします。思い出するのが、王妃エステルです。王の中庭に行くのは、召されていないければ、その場で殺されます。それでも、前に出て、殺されてもかまわないから、ただ王の憐れみと好意に自分の身をゆだねました。

¹⁹ あなた様は、以前しもべどもに、おまえたちに父や弟がいるかとお尋ねになりました。²⁰ それで私たちは、『私たちには、年老いた父と、年寄り子の末の弟がおります。彼の兄は死に、その母の子としては彼だけが残されましたので、父は彼を愛しています』と申し上げました。

ヨセフが、明らかに自分たちの父と弟に関心があることをユダは知っていました。そして、父がラケルの産んだ残された弟を愛していることを告げます。ベニヤミンと父が一つにつながっています。

²¹ するとあなた様は、『彼を私のところに連れて来い。私はこの目で彼を見たい』とおっしゃいました。²² そのとき私たちは、『その子は父親と離れることはできません。離れたら父親は死ぬでしょう』とあなた様に申し上げました。

父のいのちが、ベニヤミンにかかっていることを告げていました。ですから、今、ベニヤミンがいなくなれば、父が大きな損害を受けるということです。

²³ しかし、あなた様が、『末の弟と一緒に下って来なければ、二度と私の顔を見てはならない』とおっしゃったので、²⁴ 私たちは、あなた様のしもべである私の父のもとに帰ったとき、父にあなた様のおことばを伝えました。

ここからは、ヨセフが知らない出来事です。ヤコブの家で何が起こったかを知らせています。

²⁵ そして父が、『また行って、われわれのために少し食糧を買って来てくれ』と言ったので、²⁶ 私たちは、『下って行くことはできません。もし末の弟が私たちと一緒になら、下って行きます。というのは、末の弟と一緒になければ、あの方のお顔を見ることはできないからです』と答えました。

ユダは、父にとって無理難題であること知りつつも、ヨセフの命令に従うために説得したことを知らせています。

²⁷ すると、あなた様のしもべ、私の父がこう申しました。『おまえたちもよく知っているように、私の妻は二人の子を産んだ。²⁸ 一人は私のところから出て行ったきりで、きっと獣にかみ裂かれてしまったのだ、と私は言った。今に至るまで、私は彼を見ていない。』

ヤコブは、兄たちが偽って、血にそまった長服を持ってきたので、獣にかみ裂かれてしまったと思い、泣き悲しみました。けれども、真相は分からないということをヤコブは言い含めています。

²⁹ おまえたちがこの子まで私から奪って、この子にわざわいが降りかかるなら、おまえたちは白髪頭の私を、苦しみながらよみに下らせることになる。』

ここです、苦しみながら陰府に下る、死ぬことになるということです。

2D 身代わり 30－34

³⁰ 私が今、あなた様のしもべである私の父のもとへ帰ったとき、あの子が私たちと一緒にいなかったら、父のいのちはあの子のいのちに結ばれていますから、³¹ あの子がいないのを見たら、父は死んでしまうでしょう。しもべどもは、あなた様のしもべである白髪頭の父を、苦しみながらよみに下らせることになります。

このことが、十分に予想されることです。父がいかにも、ベニヤミンといのちで結ばれているかということを示すために、ここまで述べてきました。

³² というのは、このしもべは父に、『もしも、あの子をお父さんのもとに連れ帰らなかったなら、私は一生あなたの前に罪ある者となります』と言って、あの子の保証人となっているからです。

ユダは、父のゆえに、ベニヤミンに何かあったら保証人になると言っていました。ゆえに、今、ベニヤミンが奴隷になるのならば、私が身代わりになりますと言います。

³³ ですから、どうか今、このしもべを、あの子の代わりに、あなた様の奴隷としてとどめ、あの子を兄弟たちと一緒に帰らせてください。³⁴ あの子が一緒でなくて、どうして私は父のところへ帰れるでしょう。父に起こるわざわいを見たくありません。」

これが、ユダの心の思いでした。もちろん、弟ベニヤミンへの愛はあります。しかし、その愛は、父のいのちが彼にかかっていたので、そうなのであって、父を愛するがゆえに、もう、ヨセフを失っ

た時のように、苦しんで、死ぬことになってしまうことを、最も望んでいません。

これが、イエスご自身と同じなのです。主は、私たちを愛しておられます。けれども、主は、父なる神と、永遠の昔からつながっており、この方が私たちを愛しておられるから、イエスもその神の愛で、私たちを愛しておられます。それで、父のみこころを行うために、私たちの身代わりになって死なれました。新しい契約の保証になりました。私たちが罪から解放され、その奴隷状態から自由になるために、ご自身が罪とみなされました。この身代わりの代償によって、私たちが神の子どもとしての自由に入れるようになりました。

私は、ユダの生涯を見るに、ヨセフもそうですが、当然ながら、自分が将来来られるキリストを証ししていると思っていないことでしょう。ユダは悔い改め、それで主の前に自分が出て行かないといけないと決め、それで父に接し、ヨセフの前にも出て、執り成しています。その中で、キリストが彼に現れました。私たちも同じです。神の前にへりくだって、誠実に生きようとする時、自分でも知らないうちに、キリストが現れます。